

## 特集にあたって

生田目 崇（専修大学）

本年度も、経営科学系研究部会連合協議会の主催により開催した「データ解析コンペティション」（以下、本コンペティション）の成果を論文としてまとめた特集を組ませていただいた。

平成 21 年度の本コンペティションは、主催団体に、新たに日本計算機統計学会データ解析スタディグループを加え、学術団体として、本学会マーケティング情報研究部会をはじめ日本マーケティング・サイエンス学会 ID 付 POS データ活用研究部会および市場予測のための消費者行動分析研究部会、早稲田大学マーケティング・コミュニケーション研究所 CRM 研究会、日本データベース学会ビジネスインテリジェンス研究グループの 6 団体、企業団体として株式会社産業科学研究所開発センター、(株)NTT データ技術開発本部の 2 団体での合計 8 団体体制で開催された。

平成 21 年度は日本のファッション業界の雄であるマルイ 3 店舗の 1 年間の ID 付 POS データを提供した。コンペティションとしては 4 年ぶりの小売業の ID 付 POS データということもあり、参加申込時から関心が高かったことが印象的であった。

本コンペティションは 50 チームの参加チーム、総勢 200 余名の参加を得て、平成 21 年 10 月から 22 年 3 月まで各研究部会でそれぞれのチームの研究成果を発表していただき、各研究部会より選抜された 9 チームの研究成果が 3 月 26 日に開催された研究成果報告会で発表された。

本特集については、コンペティション終了後の 7 月を締め切りとして研究成果をまとめた論文の募集を行った。論文の投稿は、研究成果報告会に選抜されたチームに限らず、参加チーム全体から募っている。投稿された論文については、査読委員会（委員長：早稲田大学 守口剛教授）を設け、2 名のレフェリーによるダブル・ブラインド方式の査読を経ている。今年度は 8 編の論文投稿があり、査読の結果、本特集には 5 本の論文が採択された。今回掲載にいたらなかった論文についても、今後編集委員会で継続審査をお願いして

いる。

本コンペティションで提供されたデータは以下のとおりである。

データ：(株)丸井グループ傘下の 3 店舗の ID 付 POS データ

店舗：池袋店、渋谷店、有楽町店

期間：2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日

データ量：顧客数 約 554,772 人

トランザクション 約 3,125,394 件

データ項目：

トランザクション：顧客番号、売上日、売上時間、レシート番号、売上/解約区分、店コード、基本アイテムコード、プロパー/バーゲン区分、売上高、売上数量

顧客属性：性別、売上時年齢、住所コード（市町村データ）

このうち店コードは、主に扱う商品カテゴリ（例：婦人アパレル）と通し番号が振られている 851 区分であり、正確なテナント名はわからないものの、異なる店舗に同じテナントがある場合は、同じコードが振られている。また、アイテムコードは商品カテゴリ（例：婦人スーツ）で 513 区分がある。

コンペティション開催、および本特集に関して以下の方々に御礼を申し上げる。まず、(株)丸井グループからは、貴重なデータをご提供いただいた。

また、大規模データ解析に欠かせない分析ツールに関する、(株)数理システム、(株)SPSS、SAS Institute Japan の各社にツールの貸与のご協力をいただいた。

本特集の投稿論文についてレフェリーをお願いした方々には、査読期間の短い中で査読に協力いただいた。最後に、本学会には長年にわたって本特集をお認めいただいていることに重ねて感謝申し上げる。

平成 22 年度も引き続き開催をしており、数えてみると 17 年目となった。20 年まではなんとか続けたく、引き続き皆様のご協力とご参加をお願いしたい。